

## VI 課題・留意点への対応等

### 1 課題・留意点への対応

中高一貫教育校は、国が平成9年の中央教育審議会<sup>注12</sup>からの提言を基に制度化したのですが、この提言の中では、中高一貫教育の特徴・利点とともに、懸念される事項についても指摘されています。また、これらの指摘のほかにも「札幌市中高一貫教育検討協議会」における指摘や札幌市教育委員会として先進事例調査を行うなかで、確認された留意点があります。札幌市が設置する中高一貫教育校においては、これらの課題・留意点について、以下のような対応策を考えています。

#### (1) 受験競争の低年齢化への懸念

##### ア 課題・留意点

制度の適切な運用が図られなければ、受験競争の低年齢化につながる恐れがあると指摘されています。

##### イ 対応策

入学者の決定方法については、学力検査を行わず、適性検査、作文、面接、調査書、抽選などを適切に組み合わせて実施し、受験競争の低年齢化を招かないよう十分留意します。

#### (2) 受験準備に偏した教育への懸念

##### ア 課題・留意点

教育課程の基準の特例（高校の学習内容の一部を中学校で学習する等）の効果をいわゆる受験勉強に集中的に活用することにより、受験準備に偏した教育になる可能性があるとして指摘されています。

##### イ 対応策

札幌市が設置する中高一貫教育校においては、実験・観察・体験等を重視した課題探究的な学習などを教育の柱と考えており、受験準備に偏したカリキュラムは想定していません。

#### (3) 生徒集団の固定化への対応と進路変更の保障

##### ア 課題・留意点

生徒集団が長期間同一メンバーで固定されることにより、学習環境に馴染めない生徒が発生する可能性があるとして指摘されています。

##### イ 対応策

生徒に対して、きめ細かな相談体制の充実を図ります。また、前期課程修了段階で他の高校に進学することも保障できるよう、中学校段階の学習内容を高校段階に先送りしないよう配慮します。

<sup>注12</sup> 中央教育審議会

文部科学大臣の諮問に応じて教育の振興、生涯学習の推進を中心とした人材育成、スポーツの振興に関する重要事項などを審議することを目的として設置された機関で、その下には、教育制度に関する事項を扱う教育制度分科会や、幼稚園から高校までの教育に関する事項を扱う初等中等教育分科会など、5つの分科会が置かれています。

#### (4) 心身発達の差異の大きい生徒への対応（中高教員の連携）

##### ア 課題・留意点

心身発達の差異の大きい生徒を対象に円滑な学校運営を行うためには、教員が緊密に連携し、きめ細かな配慮をしていくことが必要と指摘されています。

##### イ 対応策

中学校教員と高校教員によるティームティーチング<sup>注13</sup>の実施等お互いの理解を深める取組を推進するとともに、日々の情報交換がスムーズに行われる施設整備を行います。

#### (5) 小学校卒業段階の進路選択の困難性（多様な進路希望）

##### ア 課題・留意点

小学校卒業時点で自らの進路を選択することの困難性が指摘されています。また、同じ学校で多感な6年間を過ごすこととなることから、多様な進路希望が生じるものと想定されます。

##### イ 対応策

児童・保護者に対し、中高一貫教育校の特性について十分周知を図ります。また、進路探究学習を充実させることにより、自らの将来を切り拓く力を育てるとともに、発展期（5・6年生）の段階で大幅な科目選択を可能とし、生徒の多様な進路希望に対応します。

#### (6) “中だるみ”への対応

##### ア 課題・留意点

高校入試がなく、6年間という長い期間を同じ環境で生活することから、生徒の“中だるみ”が発生することが想定されると指摘されています。

##### イ 対応策

“中だるみ”が懸念される3・4年生については、高校入試がないことによる時間的余裕を活用し、課題探究的な学習や進路探究学習など興味を持って取り組む学習の場を提供し、高い意欲を持続させる取組を実施します。

#### (7) 中学校段階におけるリーダーシップの育成

##### ア 課題・留意点

6学年一緒の生徒会活動や部活動では、5・6年生がリーダーになってしまうことから、中学校段階におけるリーダーシップの育成が困難になるとの懸念が指摘されています。

##### イ 対応策

札幌市における中高一貫教育校においては、生徒会活動や部活動については、6学年一緒の活動を基本としますが、発達段階に応じたリーダーシップの育成を図ることを考慮し、中・高別々の活動についても工夫します。

<sup>注13</sup> ティームティーチング

複数の教員が連携・協力して、指導計画の作成、授業の実施、教育評価などに当る手法を指します。例えば、授業等の学習指導において、主に授業を進める教員と児童・生徒に個別に対応する教員が役割分担をして、児童・生徒の個別の課題に応じてきめ細かく指導する方法や、学習内容によっては異なる教科の教員がチームをつくり、協力して指導を行う方法があります。

---

## 2 今後の進め方

今後、市民意見等を踏まえ、カリキュラムや入学者決定方法の詳細、具体的な部活動の展開、移行期間における対応、保護者負担などの部分について検討を進め、適切な時期に説明会を開くなど情報提供を行っていきます。

また、開校前には、入学を希望する児童・保護者向けの学校説明会の開催を考えています。

## 3 評価と検証

中高一貫教育校の設置後、教育効果を十分に評価・検証するとともに、これまで、札幌市で取り組んできた市立高校改革全体についての検証と併せ、札幌市の中等教育の更なる発展を目指すために、今後どのような取組を進めていくべきかについて検討を行います。